







まえがき


本教材『テーマ別 中級までに学ぶ日本語』では、初級から中級への「橋渡し」を目指した。1991年に出版された『テーマ別 中級から学ぶ日本語』並びにその改訂版をたくさんの方に使っていただいたが、日本語教育現場から、折に触れ、初級を終えた学習者が中級に移る際にどうしても溝があり、その間を埋める教材が必要ではないのかというご意見をいただいていた。

初級から中級への移行のために必要な「橋渡し」の内容は、いったい何なのかと現場の先生方からご意見をいただき、学習者が中級に入ってむずかしいと感じる点は以下の四点が主因だと考えた。

- A. 中級に移行して、それまであまり経験のない長さの読解教材に出会う。
- B. 中級へ移行して、急にある程度の長さをもった聴解教材に出会う。
- C. 初級段階で身につけた文法項目や文型の十分な応用練習なしに、それらを既習項目とした上で、新しい項目の学習に出会う。
- D. 初級での読解教材、聴解教材で理解した内容の事実関係だけをやりとりする練習から、中級では自らの考えを求められる。

本教材では、以上の四点を考慮に入れた教材を目指し、具体的には、以下のセクションを設け、上記四点に徐々に慣れる教材を工夫した。

 **読みましょう** ・  **聞きましょう** のセクションでは、読み物、聴き取りとして扱われる練習の長さに慣れることを意図し、ある程度の長さを持つ読解・聴解教材を準備した。また、それぞれの理解を測る部分 ( **答えましょう** と  **聞きましょう** の設問) には、上記Dを考慮して教材の内容に基づいて答える設問を付した。 **使いましょう** ・  **書きましょう** で取り上げた練習対象項目は、それぞれ上記Cを留意した練習ができることを目指した。










また、中級段階へ移行するにあたって語彙・表現が急に増えるといった点も問題とされるが、本教材ではその点も考慮に入れ、約230の語彙・表現に限り、それを  **覚えましょう** のセクションに掲げた。




本教材が出版されるに至ったのは、ひとえに、現場の先生方からの貴重なご意見、ご助言、また、辛抱強くお付き合い願った研究社の佐藤淳氏の支えが著者の原動力になっており、心より感謝の意を表す。その成果が、学習者の中級段階へのより円滑な移行に役に立つのであれば、何よりも幸いである。





2011年7月1日
松田浩志 亀田美保

『テーマ別 中級までに学ぶ日本語』(初中級ブリッジ教材)を使うために

1. 各課の構成とその狙い

本教材『テーマ別 中級までに学ぶ日本語』各課には、学習者間で共有できるであろうと考えられるテーマが設定されており、それにかかわる形で、覚えましょう・やってみましょう・読みましょう・答えましょう・使いましょう・書きましょう・聞きましょう・話しましょうの八つのセクションを設け、テーマについて考えながら、日本語学習が続けられるように構成されている。本文(読みましょう)の最後には、**新しい漢字**の欄を設け、新出漢字を一覧できるようにした。

覚えましょう・やってみましょうは本文理解準備のために設けたセクションであり、答えましょうは、本文内容並びにそこで提出されるテーマの理解度を確認し、深めるセクションである。


使いましょうと書きましょうは、本文中に出てくる文型・表現が定着するよう練習することを目指したセクションであり、聴き取り練習を聞きましょうとして設け、各課で扱うテーマを本文とは異なる視点から考える。話しましょうは、学習者に各課のテーマをまとめさせることを目指したセクションである。

2. 各セクションの構成とその狙い

覚えましょう

本文の新語彙・表現が出てくる順に並べられている。語彙・表現の選択については、以下の項目3を参照。


やってみましょう

本文で導入され、聞きましょうで異なる角度から扱われる各課のテーマへの準備を目指したセクションである。(『テーマ別 中級から学ぶ日本語』[以下、『中級』]の**いっしょに考えましょう**に該当する。)

例えば、第1課では、学習者目下の習得対象言語である日本語学習について尋ね、広く外国語学習について考える機会を設けた。それを活用して、学習者それぞれの日本語学習体験を省み、本文で扱う「正確、かつ、効率のよいコミュニケーション」というテーマへ誘うことを目指している。

読みましょう と 答えましょう

各課のテーマを紹介するために、学習者が体験すると考えられる題材を取り上げた本文を提示し、その長さは、第12課以外は、『中級』に抵抗なく入っていける長さとした。

本文の読解練習の後に  答えましょう として七つの問いを設けた。問5までが本文の理解程度を確かめるための本文内容に直接関係する質問であり、問6が本文の内容を理解した上で答える問題、最後の問7が学習者個人のテーマについての意見を求める問題である。本教材「まえがき」に掲げた中級への移行をむずかしくすると考えられる四つの主因のDとして取り上げた項目を考慮した組み立てである。

使いましょう と 書きましょう

「まえがき」で項目Cとして取り上げた点を勘案した練習で、基本的には新出項目は扱わず、既習項目の組み合わせ、あるいは、既習項目のうち定着しにくいと考えられる項目を選び出して練習とした。

聞きましょう

各課のテーマに即したやや長さのある聴解練習であり、「まえがき」の項目Dに着目した練習とした。CDを聞いた後に理解度をチェックするための設問が四問設けられており、最後の問5は聞いた内容を基に学習者の考えを問う設問とした。

話しましょう

各課に二つの問いを設けてある。第一問は、該当課のテーマについて学習者の考えを問い、学習者間での自由な意見交換を想定した設問である。今一つの問いでは、テーマについて自らが学んだことをまとめることを目指している。自らの意見を定着させるために短い作文の形でまとめさせることも、このセクションの有意義な使い方だと考えられる。

新しい漢字

下の項目4「漢字とふりがな」参照。

3. 覚えましょう の語彙・表現選択

本文に出てくる新語彙・表現が出てくる順に並べられている。『日本語初歩』（国際交流基金 日本語国際センター 2002）で学ぶ語彙・表現を既習として、各課に出てくる新出語彙・表現は二十前後と定めた。新出語彙項目が他品詞として使われる場合、「Nスル」「Nナ・ニ」と表記した。（『中級』『テーマ別 上級で学ぶ日本語』で新語彙・表現として扱われている語彙・表現は、『教師用マニュアル』の巻末に初出課を明記したリストを付した。）

4. 漢字とふりがな

漢字も語彙・表現と同様、上述『日本語初歩』で学ぶ漢字を既習漢字とし、各課十文字前後を新出漢字とした。*を付した漢字は、既習の漢字であり、読みが新しい漢字である。

ふりがなは、🗣️ 覚えましょう のセクションに出てくる漢字すべてに付し、本文では新出漢字、読みのみが付した。

本教材には、別売りで『教師用マニュアル』と 🗣️ 聞きましょう (および 📖 読みましょう の本文) 収録の CD が準備されており、前者に各セクションの更に詳細な狙い、解答例、🗣️ 聞きましょう のスクリプトが載せられている。

目 次

第1課	コミュニケーション	1
	「お風呂が寒い」と言います	2
第2課	ごみ問題	7
	ごみも買います	8
第3課	異文化	12
	音がこわかったです	13
第4課	豊かさ	18
	給食を燃やさないで	19
第5課	人間関係	24
	みんな一人なのかな	25
第6課	安全な社会	30
	子どもの世界はどこですか	31
第7課	家族	36
	「ホームシック」って何ですか	37
第8課	水資源	42
	お風呂で水が飲めます	43
第9課	癒し	47
	「ストレス」が授業でした	48
第10課	背景	53
	名前によばれました	54
第11課	国際化	59
	私、お客様ですか	60
第12課	自分の文化	65
	ウサギが数えられます	66
	語彙・表現リスト	71

第1課

コミュニケーション



覚えましょう

へいき ナ・ニ
平気ナ・ニ

ころ

あいて
相手

きがつく

いつの間にか

コミュニケーション

アドバイス

ある～

ぬるい

べんきょう ほう
(勉強)法

ぼこ
母語

うまい

りゆう
理由

かなら
必ず

なお
直す

やく た
役に立つ

せいかく
正確ナ・ニ

き
気にする



やってみましょう

1. 自分の日本語はどのぐらいだと思いますか。

	4. よくできる	3. できる	2. あまりできない	1. できない
読む	4	3	2	1
書く	4	3	2	1
聞く	4	3	2	1
話す	4	3	2	1

2. 毎日どのぐらい日本語の勉強をしますか。

二時間以上 一時間ぐらい 三十分ぐらい 毎日ほしない

3. 日本語の勉強で何かこまっていることがありますか。



読みましょう

「お風呂が寒い」と言います

どうすれば日本語がじょうずになるのか、せんぱいに聞いてみたことがあります。そのとき、せんぱいは、「平気で『お風呂が寒い』と言えるようになりなさい」とアドバイスしてくださいました。理由を聞いたら、こんな答えでした。

- 5 せんぱいは日本語の勉強をし始めたころ、「冷たい」と「寒い」をよく間違えたのだそうです。気をつけていても、つい間違えてしまうのだそうですが、あるとき、自分が間違えたときは、必ず相手の人が「お風呂の水が冷たい」「お風呂がぬるい」と直してくれることに気がつきました。それから
- 10 んめい相手の言うことを聞き、自分の日本語が直されたらそれを覚ええました。全部は覚えられないし、同じ間違いをすることもありますが、それでも、その勉強法はずいぶん役に立ったそうです。

- せんぱいは、言葉を一つ一つ注意して聞くようになってから、いつの間にか母語で話すときも、相手の言うことをいっしょうけんめい聞き、よく考えながら正確な言葉を使うようになったそうです。「コミュニケーションがじょうずになりました。外国語がじょうずになるということは、コミュニケーションがうまくできるようになることだと思います。だから、日本語がじょうずになりたいなら、間違いを気にせず、平気で『お風呂が寒い』と言えるようになることが大切です」と、せんぱいが教えてくださいました。

新しい漢字

平 始 違 必 相 直 覚 母* 正* 確



答えましょう

1. 日本語の勉強のために、せんばいはどんなアドバイスをくれましたか。
2. せんばいは、相手と話しているとき、どんなことに気がつきましたか。
3. それに気がついてから、何をし始めましたか。
4. 母語で話すとき、せんばいの話し方はどうなりましたか。
5. せんばいは、外国語がじょうずになると、どうなると言っていますか。
6. それは、どうしてだと思いますか。
7. 日本語で話しているとき、間違ったところを直されたら、どう思いますか。



使いましょう

A 「～たことがある」と「～(る)／～ないことがある」の練習をしましょう。

a. ～たことがある

1. 小学校のとき、野球の試合でゆうしょうしたことがあります。
2. A: 「むらかみはるき」という人を知っていますか。
B: ええ、名前を聞いたことはありますが、本を読んだことはありません。
3. まだ _____ たことがないので、 _____ てみたいです。

b. ～(る)／～ないことがある

1. チンさんはまだ一日も学校を休んでいません。でも、たまにじゅぎょうにおくることがあります。
2. 毎朝自分でおべんとうを作っていますが、時間がなくて作れないこともあります。
3. _____ は _____ ことがあるので、気をつけてください。

B 「～(る)ようになる」と「～(ら)れるようになる」の使い方を練習しましょう。

a. ～(る)ようになる

1. 医者に「少しやせたほうがいい」と言われて、運動するようになりました。
2. 父は仕事をやめてから、母と二人でいろいろな所に出かけるようになりました。
3. _____ ので、_____ ようになりました。

b. ～(ら)れるようになる

1. 三か月勉強して、やっと少し日本語が話せるようになりました。
2. 車の運転は少し練習すれば、だれでもできるようになりますよ。
3. _____ けれども、なかなか _____ ようになりません。

C 「～てくれる」の使い方を練習しましょう。

1. 知らない人に道をたずねたら、親切に教えてくれました。
2. 両親が「やってみなさい」と言ってくれたので、日本に来ることができました。
3. _____ てくださり、ほんとうにありがとうございます。

D 「～のだそうです」の使い方を練習しましょう。

1. ニュースによると、今年の夏は雨が多かったから、やさいが育たず、ねだんが上がったのだそうです。
2. A：キムさんはお休みですか。
B：ええ、今日国へ帰りました。土曜日にお兄さんの結婚式があるのだそうです。
3. A：リンさん、今度弟さんが日本へ来るそうですね。
B：ええ、弟は _____ たいのだそうです。



書きましょう

A 「～のか(と)聞きました／たずねました／質問しました」の練習をしましょう。

例：〔せんぱい・聞きました〕

「どうすれば日本語がじょうずになりますか」

⇒ **せんぱい**にどうすれば日本語がじょうずになるのか聞いてみました。

1. 〔先生・質問しました〕

『あげる』と『くれる』はどう違いますか」

⇒

2. 〔友だち・聞きました〕

「ここから京都へ行くにはどうやって行けばいいですか」

⇒

3. 〔母・たずねました〕

「いつ日本へ遊びに来ますか」

⇒

B 「～だけでなく、～」の練習をしましょう。

例：今週も来週もテストがあります。

⇒ 今週**だけでなく**、来週もテストがあります。

1. 日本語はひらがな、カタカナ、そして、漢字も覚えなければならないので、たいへんです。

⇒

2. ここでは魚をつることもやいて食べることもできます。

⇒

3. このレストランはねだんが安いし、おいしいので、いつもお客さんが多いです。

⇒



聞きましょう

CDを聞いて、次の質問に答えてください。

1. () 2. () 3. () 4. () 5. ()



話しましょう

1. 友だちにアドバイスできる勉強法がありますか。
2. 第1課を読んでわかったことをかんとんに話してください。